

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を目指す。

授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

1. 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
2. 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
3. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
 - ①親や保育者との出会いと関わり
4. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
 - ②友だちとの出会いと関わり
5. 子どもと保育者の関わり
 - ①子どもとの信頼関係
6. 子どもと保育者の関わり
 - ②子ども同士の関係をつなぐ
7. 遊びのなかのひととの関わり
 - ①遊びと子どもの育ち
 - 課題レポートを提出
8. 遊びのなかのひととの関わり
 - ②遊びのなかの友だちとの関わり
9. 生活を通して育つひととの関わり
 - ①親や家族との関わり

10. 生活を通して育つひととの関わり
 - ②園生活とひととの関わり
11. 個と集団の育ち
 - ①一人一人の理解と個と集団の関係
12. 個と集団の育ち
 - ②クラス集団の育ちと個の育ち
13. ひととの関わりを見る視点
 - 自己の発達とひととの関わり
14. 現代の保育の課題と領域「人間関係」
15. 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する。
 - まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。

平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とし、5回を超える欠席で不合格とする。

テキスト

岩立京子（編者代表）、無藤隆（監修）「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」萌文書林

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護 I			17639	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実態を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化している。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション 児童の社会的養護の理念と概念
2. 施設における子どもの社会的養護 施設養護の特質と機能、被虐待児への対応
3. 施設における子どもの社会的養護 施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
4. 社会的養護における支援の計画と内容 個別支援計画作成の留意点と作成事例
5. 虐待問題と児童養護 増加する児童虐待の要因と課題
6. 社会的養護の実際 学校教育や地域社会との連携、自立支援
7. 里親制度と課題 日本と海外の相違、保育士としての役割
8. 障害児、その保護者への支援 事例からの考察、まとめ

授業の方法

VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とする。積極的な参加を求める。また、指定教科書はないが、ノートはしっかり取る。

準備学修

児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

理由のある特例欠席以外は、認めない。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

留意事項

将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講すること。「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	障害児者相談支援専門員			

授業の到達目標

授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

1. 社会福祉援助技術の体系と歴史
2. 人間関係と自己理解 ①
3. 人間関係と自己理解 ②
4. 社会福祉専門職の価値・倫理 ①
5. 社会福祉専門職の価値・倫理 ②
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

授業の方法

VTR、DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

準備学修

子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深めること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特例欠席以外は認めない。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

留意事項

対人援助技術は、これからの保育士には必要なものである。関心を深めること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	障害児者相談支援専門員			

授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。

また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面で必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
コミュニケーション技法 ①
2. ケースワーク、グループワークの理解
3. 面接技法 ①
4. 面接技法 ②
5. コミュニティーワーク
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

授業の方法

VTR、DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深める。また、双方向の授業であるから、積極的な参加を求める。

準備学修

日常から子どもに関わることに関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特例欠席以外は認めない。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

留意事項

保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会とすること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割を理解する。子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。